

研究・調査報告書

報告書番号	担当
259	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption during pregnancy and the risk of early stillbirth among singletons. 一子出産例における妊娠期間中の飲酒と早期死産の関係について	
執筆者	
Aliyu MH, Wilson RE, Zoorob R, Chakrabarty S, Alio AP, Kirby RS, Salihu HM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol 2008;42:369-374.	
キーワード	
stillbirth, pregnancy, alcohol consumption, hazard ratio 死産、妊娠、飲酒、ハザード比	
要旨	
<p>目的： 妊娠中の飲酒と早期死産の関係を後ろ向きコホートで検討する。</p> <p>方法： 1989-1997年にミズーリで多胎出産ではない出産として登録された655,979例を後ろ向きコホート研究の対象とした。母親の飲酒状況別に、全期死産、早期死産、後期死産に対するハザード比を交絡因子の調整を行ったコックス比例ハザードモデルを用い算出した。また同じ母親から生まれた兄弟姉妹の群間相関を調整するために、Robust Sandwich Estimatorを使用した。</p> <p>結果： 3508例の死産が同定された(死産率5.3、1000人対)。妊娠中飲酒している妊婦の死産率は8.3であった。妊娠中に飲酒していた妊婦では、まったく飲酒しなかった妊婦に比べ死産のリスクは40%増加した(調整したハザード比1.4、95%信頼区間(CI):1.2-1.7)。アルコールと死産の量-反応関係は明らかであり、1週間に5drink以上飲酒する人では、まったく飲まない人に比べ死産のリスクは70%高かった(ハザード比1.7、95%CI:1.0-3.0)。早期死産のリスクは飲酒した妊婦では飲酒なしの妊婦に比べ80%高かった(ハザード比1.8、95%CI:1.3-2.3)。飲酒量で層別すると早期、後期ともに死産のハザード比は統計学的有意には達さなかった。</p> <p>結論： 妊娠中の飲酒は、早期死産のリスクを上昇させた。以上の結果から、妊婦やこれから妊娠しようとしている人に対し、妊娠中の飲酒が有害であることを広めるカウンセリングシステムを強化する必要があることが強く示唆された。</p>	